



「中学校体育連盟功労賞を受賞して」

熊本市立出水中学校 永尾信次

今回中体連功労賞を私のようなものが受賞させて頂いて、本当に恐縮しております。

昭和57年春に鹿児島大学を卒業して、荒尾養護学校（現荒尾支援学校）に臨時講師として勤めることになり長い教員生活をスタートしました。

すぐに、バスケットボールの熊本教員クラブに所属し教師のイロハを教えてくださいました。当時の監督が、故吉田篤弘先生でした。練習は毎週土曜日の夕方からと日曜日の午前中です。「月曜日から金曜日までは学校の仕事を精一杯やれ。そして土日の練習は休むな。」これが吉田先生から教わった最初の言葉でした。選手としては、たいしたことは出来なかったのですが、吉田先生の言葉を胸に、練習は絶対に休みませんでした。当時、熊本教員クラブは全国教員大会で優勝したり、国体の教員の部で優勝したりと全国の強豪チームの一つでした。毎年、全国大会に行くことで、日本のトップレベルのプレーを実際に自分の目で見て、指導者になった時にとってもためになった時期でした。その後15年ほど選手・マネージャーとして所属しました。（国体チームのマネージャーも兼務し平成11年の熊本国体まで続きました）この教員クラブでのいろんな先生方とのつながりが、この後の小学校や中学校での事務局の仕事につながりました。平成11年3月には、男子県選抜チームを率いて熊本県男子で初めて全国3位になることもできました。

その間、松橋養護学校に新採教員として3年、地元（荒尾市）に帰り隣の長洲町立清里小学校に5年、平成3年荒尾四中に8年勤務しました。荒尾四中はその当時、生徒指導面でもかなり荒れた学校で、市議会でもその荒れた様子が取り上げられるような学校でした。6年間は、やんちゃな子供たちと格闘の日々を送りました。夜中に頻繁にいたずら電話がかかり、電話線を抜いて寝たこともありました。また生徒とつかみ合いになり一瞬ためらった瞬間に生徒から殴られたこともありました。それでもその後の2年間は、とても落ち着いてすばらしい学校になりました。そんな中で、赴任して3年目に初めて新人戦で優勝することができました。しかし、最後の県中体連では2回戦で負けて、自分の指導力のなさを痛感した時期でもありました。また、中学校でのいろんな事務局の手伝いをするようになったのもこの時期からです。大会の組合せや準備等で週末に忙しい日々が続きました。

平成11年4月に母校荒尾一中に転勤し、県中学部の事務局をしながらバスケットの指導や、九州協会での中学校代表として仕事など、いろんなことが増えてきました。

2005年、熊本県中学生連盟を設立してからは、理事長としてまた九州ブロック長として全国大会等への役員として参加することになりました。その後日本中学生連盟の副理事長となり、2012年U16日本代表女子のアシスタントコーチになってからは、月1回の二泊三日のナショナルトレーニングセンターでの合宿、スリランカでの第3回U16アジア大会、翌年のチェコでのU17世界選手権。インドネシアでの第4回U16アジア大会、スペインでのU17世界選手権。そして昨年、インドでの第5回アジア大会と日本代表として海外遠征に参加することができました。まさか、自分が日本代表のスタッフになるとは夢にも思っていなかったのでうれしくもあり、その責任の重さと世界の中の日本を強く意識するようになりました。

実績もない私が、こんなにいろんな場所でバスケットの仕事ができるようになったのも、今までお世話になった諸先輩方や私を支えてくれた仲間のおかげだと感謝しています。